



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第22号

徳島 1916年2月20日

1915年5月9日～14日のヒンデンプルクとの出会い  
シュタニスラウス・カウアー博士（ケーニヒスベルク）記

（『トクシマ・アンツアイガー』に寄せられた以下の寄稿は、ケーニヒスベルク<sup>1</sup>の彫刻家カウアー博士が記したものである。彼は、ヒンデンプルク元帥を実際にモデルとして胸像を制作することが許された最初で唯一の芸術家である。ドイツ新聞界の一致する判断によれば、ケーニヒスベルク市のために作られた胸像は、傑出した芸術作品として大きな価値があるばかりではない。それは、類稀な写実性によって実際の元帥の特徴をよく表している。すなわち、彼の名前を永遠に不滅にしたものすごい出来事の真ただ中で彼が見せた表情を伝えていて、大きな価値がある。後世の芸術家が

1 現在のロシア領カリーニングラート

大戦術家ヒンデンプルクを表そうとすれば、カウアー博士の作品も信頼すべき資料として取り上げられるに違いない。その胸像の模写は、1階の玄関の間に展示することにする。

編集部。

私が、東部総司令本部のフォン・ヒンデンプルク＝フォン・ベネッケンドルフ陸軍元帥の胸像を彫塑する最初の人となる幸運を得たのは、次のような事情による。その胸像は、首都にして王宮都市ケーニヒスベルク市のものとして指定されたということ、私の申請が市長ケルテ博士の心のこもった推薦状によって支援されたということである。はじめてモデルとなって座る直前に、陸軍元帥は胸像が実際にケーニヒスベルク市のために描かれるのかどうか、もう一度尋ねた。私はそれに対して、はいと答えた。そして元帥は、会話や聞いた内容については一切公表してはならない旨を、私に指示した。さらに元帥は、その胸像を自分が気に入ったときに初めて公開を許可するという留保をつけた。その時すぐさま彼は、気に入るのは疑いないけれど、と付け加えた。そして、この「軍人風の」前置きの理由を、元帥は次のように述べた。「このことを言いたかったのは、余について多くの虚偽が書かれており、余への信頼が悪用されてきたからにすぎない。」—したがって、私は元帥から聞いた興味あること全てについて公にするつもりはない。しかし、胸像の成立に関連する範囲内の私の個人的な印象に関しては、別である。最初、モデルになって座ってもらう回数は2回と決められたが、最終的に5回となった。元帥は、毎回1時間30分から1時間45分まで私の前に立った—休憩を入れずにである！朝8時過ぎに私の仕事は始まった。彼の気立ての良さと忍耐力は賛嘆すべきものだった。私は必要な全ての顔の寸法と体の寸法を繰り返しコンパスで写し取った。じっと注視する私の眼に映ったのは、微動だにしない彼の姿であった。—その際、モデルとなって座っている間、最も友好的かつ全ての分野にわたって軽く触れる会話は、私にとって大きな収穫であった。というのは、その

ことによって、表情は絶えず生き生きと動き、変化に富んだものになったからである。胸像の制作当時にリーバウ占領があった。この幸運な戦果は、私がどう再現するか熱中していた顔の表情に良い作用をしていたのかもしれない。— 精神的な動きとか心の動きは、眼の上の額の部分に、特に鼻の付け根の上にある額の真中のしわに最もはっきりと見て取ることができた。眼は、異常に大きな額の下に沈んでいたが、暗闇から生き生きとかつ断固として見つめている灰青色の眼によって、その暗さは解消されていた。特に私の興味を引いたのは横顔、とりわけ横から見た鼻だった。その鼻は前から見ると低くて幅広い印象を与えたが、横から見る鼻はかすかに曲がった鼻骨を持っていたため、顔に上品さ、優しさが漂っていた。顔の表情は、否、頭蓋全体の形は、詳しく検討してみると粗暴さのかけらもなく— これは多くの絵や写真が描写している— 頭蓋のがっしりした特有の形にもかかわらず、個々の点を取り上げて見れば、どちらかと言えばか弱く、華奢だった。これは驚くことではない。というのは、ヒンデンブルクの人となり全てからして、彼の人間性は全く慈悲深く、そこで個々の顔の部分と表情全体は飾り気がなく、大袈裟な身振りは見られなかった。ヒンデンブルク元帥のこの上なく真っ直ぐな姿勢は感銘を与え、畏敬の念を抱かせる何かを持っていた。足底から頭の頂辺までの高さが1メートル85センチある堂々とした体躯と彼の軍人風の姿勢は、おそらく誰れもが無意識のうちに身体を高くぐっと伸ばし、さらに彼のスピーチの場合には、人をいわば「直立不動」にさせるものである。その際、最初に短く話しかけただけで「不安感」は全て雲散霧消し、演説が簡潔で短くとも、彼の話し方と低い響きは非常に慈父らしく人間味があり、慈悲に満ち溢れている。そのため、父親に引きつけられるような感覚を覚えるのである。元帥は胸像の進捗状況に関心を寄せ、そのことが最も幸いして私の支えとなった。作業が終了する際、私は元帥から胸像を公に展示し、かつ複製してもよいとの許しを得た。まともな肖像が世に知られるようにしたいためだ— 大抵のものはあまり良くないのだよ、と彼は言った。彼は、ベルリンで胸像が展

示されることを望んだ。— 東部総司令本部での、こうした誠に偉大で類稀な人物との幾度にも及んだ交流の日々は、私にはいつまでも忘れられないものとなるだろう。それは、思い出に富んだ芸術家としての一生のなかで、最も美しくかつ最も幸せな出来事であった。

シュタニスラウス・カウアー

---

## 在外ドイツ人（４）

しばしば大量のドイツ人移民が、今日のアメリカ合衆国へ移住した。アメリカ合衆国ほど、ドイツが価値ある人的資源を数多く引き渡した国はない。すなわち、今日なお日常語としてドイツ語を使用しているドイツ人の数は、合衆国内で少なくとも 1,300 万人と見積もられていて、アメリカ人全体の 3 分の 1 がドイツ人の血を引いている。それゆえ、これらドイツ人の大部分は、ドイツ的であることを失い、アングロ・アメリカ人になっている。このことから直ちに移民のみを非難することはできない。移民はさまざまな国民階級から構成され、きわめてさまざまな理由から新しい故郷を求めようとしたのである。なぜなら、ほとんどの者には、当時政治的にたくさんの小さな国家群に分裂していた祖国との国民意識を強める絆が欠けていたからである。

大部分、移民たちの当時の諸国政府を非難すべきであって、これらの政府は移民の波を適切に導いてドイツ民族にとって利益となるように留まるべき場所を見つけられなかったのである。

今日の北アメリカが持つ重要な地位の大部分は、移住したドイツ人の仕事のおかげである。

何十年も前からアメリカに移住したドイツ人は、喜ばしいことに、これまで以上に自分たちでまとまろうと努めている。この意味で、とりわけ「ドイツ系アメリカ国民同盟」は大変熱心に活動している。その努力によって、

1,300万人のドイツ語を話すアメリカ人が結びつくようになって欲しいものだ。

この点で、ドイツ系アメリカ新聞、なかんずく『ニューヨーク州新聞』も重要である。

今日の戦争は多くのドイツ系アメリカ人を自分たちの祖国にふたたび近づけることに寄与したのであろうし、ドイツ系アメリカ人団体によってわれわれのためになされたことが多々ある。それは単に慈善団体活動に留まらず、イギリスの新聞によって煽動されたアメリカ人の間で、ドイツ系アメリカ人団体はわれわれの敵の嘘や誹謗を論駁し、疑いを晴らしてくれた。政治的にも、彼らはわれわれのために介入し、敵への弾薬類等の引き渡しに対し抗議してくれた。

こういうときに、今日ではほぼイギリスの兵器庫となっているアメリカ企業のトップに、シュヴァープ等といった名前があるのはなおさら恥ずべきことである。

つづく

---

## 演 劇<sup>2</sup>

『良心の呵責』。穏やかで謙虚な讚美歌の響きがそここに混ざる軽快で陽気な序曲の音楽は、あるムードを醸し出した。すなわち、最初の場面の長く朗々と響く和音を通して、アンツェングルーバーはわれわれをして戯曲全体をおおう真剣で快活な気分させるのである。われわれはこの作品をとりまく環境を、戯曲に登場する人物の種類と性格を知るようになる。根底にあるのは、あらゆる健全で自然な陽気さであり、国民に衝撃を与えたその作品の素朴さと純粹さが生れつきの才知でもって豊かに仕上げられているのを、われわれはうれしく思う。

---

2 原文には登場人物の表記に誤りがあるので、原作にもとづいて訂正している。

全ての真の喜劇の基礎にあるのは、人間の性格の多様さを豊かに思いやる喜びである。優れた筆致で描かれている農民たちが非常にリアルに演じられたので、すべての聴き手たちの喜びは、戯曲と素晴らしく才能豊かな俳優に対する非常な熱狂へと変化した。— 生れ付き陽気ではあるが、心の優しいグリルホーファーは、海千山千のしたたか者である「怪しげな」職人によって、陰鬱な気分になる「取り越し苦労」をさせられた。この人物は、年老いたグリルホーファーの若気の過ちを、遺産を横領する目的で利用したのである。それは、自分の望みに対して彼をその気にさせるためであった。それまで眠っていた事柄が次々と強烈に描き出されたことに彼はびっくり仰天し、かつての良心が呼び起こされた。そして、彼は、良心はないのかと責めさいなまれ、噛みつかれ、そのことにがんじがらめになっている自分を感じた。「グリルホーファー、僕が義兄さんだったら 100 万ぽっちでは罪も償わずに神聖な玉座の前に立つ気はないよ。100 万ではね！」だが、哀れにも彼の犠牲となった者がまだ生きていることを年老いたグリルホーファーは遂に聞き知り、その人物を捜しあてた時、彼はポルトナーの奥さんが困窮し青白い顔をした女性ではなく、「口喧しい」、がみがみ言う、きわめて健康な農婦であることを知った。彼女は 12 人の子どもを産んでいて、これ以上、婚外子である 13 番目の子どもで気をもむことなどしたくなかった。そのことは、その老人を重苦しい気分から救い、人生に逆らうことなく元気に生きる希望を与えた。だが、重い石が彼の心に「のしかかった」— 子どもである。彼の子どもはいつも愉快で絶えず笑っているホルラッハのリースとして、第一幕で登場していた。素質に恵まれいっさいのものに満足しながら、彼女は昔からの境遇のなかを自力でなんとかすることができた。彼女は有能なヴァストルを愛しく感じ、年老いたグリルホーファーを元気づけたので、彼はしきりに心に浮かぶ神意に合った存在を忘れ、彼女が歌い始めた素晴らしい歌に夢中になって加わった。

さあ、私は陽気でいたい。

年寄りではあるけれど、

こうしていきたい、こんちくしょう！

こんなこと、だれにも関係ない。

幸運児として生まれた彼女は、自分の母ちゃんから丁度よい時期に年老いたグリルホーファーの元へ送られた。自分とヴァストルのために農場を救い、苦しんでいるその農民に子として「キスと保護と楽しさ」を取り戻すために。ここで陽気なホルラッハのリースによって、その戯曲は喜劇が持つ朗らかな面を取り戻した。そして、あらゆる良質の喜劇と同じく、結局は胸を打つような悲劇的性格を帯びてきていたこの戯曲は、陽気なホルラッハのリースの言う、次のような天真爛漫な言葉によって、喜劇が持つ朗らかな面を取り戻す。「それじゃあ、あなたは、私に命をくれたのね。ありがとうございます。この世界はとても好きよ。」しかし、この抜け目のない老人は、年老いたポルトナーの家のすばらしい場面では非常に巧みに、かつ彼独特に窮地を脱した。彼は、自分をさんざん打ちのめそうとした農民たちに送り状を「教皇庁の免除状」だと称して見せ、「モンナ、私はぶたれてはならないのです」と言った。情緒豊かに構成された大詰めの歌唱の中のリーゼルによって、「真のキリスト教教理の教え」が授けられねばならない。

主は生命あるものに  
喜びを授ける  
我々がしばしばへまをしても  
主は良いようにしてくれる  
だからなすべき事を気につけよ  
誰をも惑わせるな—  
ひとごとにかかわるな  
おまえはその代わりに何も得ない。  
人ごとにかかわるな  
おまえはその代わりに何も得ない。

-----

戯曲の音楽に関しては、その夕べは「初演」であった。ヴェルナー予備役副曹長殿が、付随音楽を作曲するという困難な課題を引き受けてくれた。上演が大きな成功を納めた理由のひとつは、彼がその課題を引き受けたことにある。とりわけ、彼があらゆる受け狙いを避け、アンツェングルーバーの作品に出来るだけ完全に合わせることを指針とした、しっかりとした感覚を称揚したい。それによって質素で感動的な民謡調を適切に表現することに、彼は素晴らしい成功を収めた。

## 第 32 回コンサート

### 第 I 部

1. 『摂政ルイトポルト公行進曲』 シュレート
2. 幻想曲 オペラ『ルチア』から ドニゼッティ
3. 『戦いの前のドイツ人戦士の夢』 弦楽四重奏曲 オイレ
4. 『衛兵交代パレードがやって来る』 キャラクターピース  
アイレンベルク

### 第 II 部

1. 序奏と合唱 オペラ『カルメン』から ビゼー
2. 歌曲『君は何と美しい』によるパラフレーズ ヴァイト
3. ワルツ オペレッタ『陽気な農民』から レオ・ファル
4. 「君と僕、ミュラーの雌牛」行進曲 オペレッタ  
『離婚した妻』から レオ・ファル

---

## 収容所展望

日本は時間を無駄に費やしてよい数少ない幸せな国のひとつである。そ



れは、祝日の多さに見ることができる。中国風新年が終わるやいなや、恵比寿がやって来る。すなわち、七福神のひとつ、商業、漁業そして海運の神の祝祭日である。したがって、ここの住民全てがこの神を敬って祝うのは何ら不思議なことではない。農民たちが大挙して町へやって来て、大勢がもの珍しげにわれわれの収容所の周りに集まったので、外に歩哨が特別に配置されねばならなかった。

ほとんどの人が供物の象徴を携えていた。赤い紙きれの付いた藁縄を頭に乗せるか、あるいは小さな稲穂を結び付けた竹の枝を手にしていた。われわれにとっても、この日曜日はまた祝日で、この度はプロテスタントとカトリックの礼拝のための祝日だった。聖職者たちは、今の季節、どちらかと言えば面倒な旅をわれわれのために引き受けてくれた。このことに対して、いくら感謝してもし過ぎることはない。

夕方、再び劇が上演された。指導者が目的意識を持った上昇志向で、ますます難しくなる戯曲を上演していくことに感心せずにはいられない。平和が訪れてクラゲルフィンゲンやヴェルネルスキルヘンに住むはめになると芝居を無性に見たくなるだろうと思われる程に、われわれは徐々に贅沢に慣らされてしまっている。

計画された展覧会は、これからの時期への労働意欲に歓迎すべき目標を与えた。その時まで気づかれないように、多くのものが密かに製作されている。まるでクリスマスの作品ではないかと思われるほどである。まだ展覧会に相応しい出品物が見つからない人がいるそうであるが、そういう方には、たとえば次のような物を挙げておこう。暖房付きですきま風のない収容所の模型、防音の効いた音楽ホールの模型、酒保の常連客用小部屋の模型。さらに、持ち運び出来る個人用部屋は大人気になろう。このアイデアに対して代価は要求しないが、これから何か利益を得ることがあった人だけに対しては、公共に奉仕する目的のために寸志を寄付することを願う次第である。— 私は風邪のためベッドに引っこんでいたが、そのベッドには新聞や手紙が山のように積まれ、そのなかに私は埋もれていた。そ

して、それらたくさんの故郷からの郵便の山は、ロシアの検閲が、祝日後再び活動を始めたことを示している。この仕事熱心さが続いてほしいものだ。— 気温が特に低いというわけではなかったが、それにもかかわらず、ここにいるわれわれは風邪を引いてしまった。この寒さに、時間が来てもほとんどベッドから抜け出せない者がいる。もちろんそれは故国でも同じことがあるだろうけれど。とにかくわれわれは、この気候やこのような宿泊施設に慣れていないのだ。この頃は家の外でも内でも、分厚い下着を手放すことができない。最も快適なのは、十分に温まった風呂に入る時である。ただ残念なことに、われわれはいつも素早く風呂から上がらねばならない。というのは、次の人がすでに待っているからである。— 健全な洒落の効果がいかに大きいかを示したのが、二・三日前のフリードリッヒ・シュトルツ作『血肉刺』のバリエーションである。ナイフを振り回した戦いの後、真っ黒い血が幅広い川となって商売上手のソーセージ製造業者の身体から滴り落ちるのを見るや、新鮮なソーセージはもう終わりかと邪気のない人は思った。彼らは、すべてが思い違いで、被害者と思った男が血の一杯詰まった豚の膀胱を胸に抱いていることにやっと気づくと、ほっとしたのである。しかし、世の中見かけから欺かれることはよくあることだ！— 先日、アルバム用の写真が私のところへ届けられたのには驚いた。私はそれを購入していたことをすっかり忘れていた。しばらく考えた後、ずっと以前に、私は見た目が立派なまっさらのアルバムに目を通し、心のなかで注文した写真をそこへ貼り付けていたことを思い出した。しかし、写真はなかなか来ず、美しいアルバムは次第に埃にまみれてしまった。それを今、それなりのものにしようというわけだ。「自家製」で写真を制作することを今確立すべきであり、外部への注文はあてにならないことが分かった。— 夜の安眠妨害について、丸々一章を使って書くことができそうだ。まず最初に猫が哀れっぽい声で鳴き、次いで隣の犬がいつもこの時間に実に根気よく遠吠えをした。さらにまた、いつもはとてよい子であるシュテプケは、夜になると抜け出し収容所の周辺をうろつき、歩哨に吠えかかるという悪い

癖を持っている。われわれはそのことに今では慣れてしまった。最近、夜になると、しばしば鋏を打った靴の重量感ある足音が聞こえる。禁止された小径をそぞろ歩きする人は誰もいないことを、収容所の伍長は時々確かめているようだ。夜、鼠の走り回る音を聞くのは楽しくもある。もっとも、もう実際にあったことだが、顔の上を鼠が走ってはじめて目覚めるなんてことのないように。あちこち走り回り、キーキー叫び声をあげ、かじったりガサガサ動き回っている。この動物自体をベッドの下で、あるいは戸棚の中で捕まえたことがなければ、それは小鬼であると人は信じるだろう。しかし、ここは室内狩猟者のための豊かな活動領域である。かつての真の狩人もまた、いわば罾猟をする人として狩猟に勤しんだのである。もし私が収容所内の出来事を扱う編集者の仕事に全面的に携わっているのでなければ、私はこのスポーツ分野にきつと専念するであろう。現状はというと、私はみずから狩猟に携わることなく、未来の収容所狩人の区域と彼の冒険を語ることが許されているのみである。それはそうとして、猟の幸運を！

### チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、  
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

#### 第 87 問の解答

1. Kd7-c6. Kd4 など
2. Kc6-d5 詰み
1. .... 任意の手
2. T. D. S. で詰み

#### 第 88 問の解答

1. Sd7-f8 e5-e4
2. Dg8-g5+ Kf4 x g5 か  
f6(h6) x g5
3. Sf8-e6 か g6 で詰み
1. .... Ta4xh5
2. Sf8-e6+ Kf4-e4
3. Dg8-a8 詰み

正解を送ってくれたのは、ヨーゼフ・ヴェーバーである。

第 89 問

白：Kb6, Db1, Tc8, Lh8, Sg4, Bc6, f5

黒：Kc4, La4, Sg2, Bd6

2 手詰め

第 90 問

白：Ke1, Dh2, Le7, Bb2, c6, f6

黒：Ka4, Ba5, b4, b5, c7

3 手詰め

---

## 青島での苦難に満ちた日々から（４）

そのようにして、私はよく晴れた日に故郷に別れを告げた。長い期間ではなかったけれども、そのことによって気持ちを切り変えることができた。はっきりと認識した責務の道をじっと見る時、人は自分が持っているものを心も軽く手放すことができる。そうした体験は、内面的成長にとってたいへん重要である。私は妻と子を伴い、庭を歩いて外に出て行った日のことを思わざるを得なかった。施徳呈が家を監視するためそこにいた。大鮑島地区へ行った時、伝道教会が建っている丘の辺りに危険が間近に迫っているのが分かった。それゆえ、私は再度引き返した。大鮑島地区へ戻る途中、膠州通りと交差するほぼ全て道路に、海の方面から飛んで来たと思われる大口径の榴弾が落ちた。建物が崩壊し、煙と塵がもうもうと雲のように通りに立ち込めた。私は、通りの向こう側に建っている病院の西側の家に入った。そこには、砲撃から防護するため地下室が掘られていた。青島が占拠された日には、それはまだ完成していなかった。

つづく



天候の急変！



## 新しい A.B.C.



- A アメリカは気にすることなく、  
ビジネスをしている
- B ベルギーはなじみがないが  
今ここにたくさんのドイツ人が住んでいる
- C カレーは海のすぐ傍に位置しているのだが、  
イギリスはそこを手放したまらない
- D ドイツは一時的に殴られるかもしれないが  
しかし常に勝利する。
- E イギリスの息子たちは進撃する、それはただ  
大金のためである。
- F フランスは全ての戦いに勝利する、何故なら  
何故なら、アヴァ<sup>3</sup>の報道は何でも正しいから。
- G 誰もが金貨を非常に好む、しかし  
紙幣を目にする方が多い
- I イタリアは衰えな国で、あそこでは  
誠実さというものが知られていない。

---

3 アヴァ (Havas) はフランスの有力通信社の名前

K コサックであることはとても素敵だった。

ゲブリッツは快適だ。

L これまでずっと風がわいていた。でも今は

なおいっそうひどい。

M イギリス人はほら吹きだ

N 何もしないくせに話は達人だ。

O 東プロイセンはまたきれいになった。

あのヒンデンプルクがそうしてくれる。

P プルツェミシルは簡単には消えない。

ロシア人はとっくの昔に出て行ったが。

Q カッチージチーズとはよく言った

ビール飲み兵法家が誘惑されるもの

R ロシアはまず一回転がってくる。

それから二回向こうへ転がる。

S 小国セルビアは消え失せた

ごちゃごちゃに交換されて

T トルコ人はこの冬戦っている

先頭にたち、後ろにはイギリスが

U U ボート、つまり潜水艦は

敵を大いに悩ませる。

V 今ではたくさん飛行機が飛んでいる。

人々の上に爆弾を降らせながら。

W 女たちは — 感じのよい人であっても —

戦うときは …… 婦人参政権論者と呼ばれる。

X X脚をしている英雄はいるが

それでも戦場には出なければならぬ

Y イーブルはドイツに役立つが

そこにいるととてもくすぐったい

Z ツェッペリンは轟音を立てて出現する

すると明かりがすべて消される

